

## 平成24年度 第3回入船地区学校統合懇談会議事要旨

**1 開催日時** 平成25年2月6日(水) 午後2時30分～午後4時00分

**2 開催場所** 浦安市集合事務所4階会議室

### 3 出席者

(委員)

小松郁夫学校統合アドバイザー、緒方会長、鞠山副会長、新田副会長、吉岡委員、師岡委員  
設楽委員、中村委員、米山委員、長野教育総務部長、大野教育総務部参事、山高教育総務部次長  
(事務局)

佐藤学務課長、桂林学務課長補佐、鈴木管理主事、塩谷管理主事

### 4 議題

- (1) 教育長挨拶
- (2) 入船地区学校統合準備委員会からの報告
- (3) 各委員からの報告
- (4) 保護者・地域への情報発信について

### 5 資料

(当日配布)

- ・入船地区学校統合準備委員会からの報告
- ・アンケート集計結果

### 6 会議経過

(2) 入船地区学校統合準備委員会からの報告 (別紙参照)

\* 入船北小学校児童の、統合時の美浜北小学校への通学について

委員：入船北小では美浜北小に行きたいという要望が多い。また、入船北小の教職員を新しい小学校と美浜北小に振り分け、美浜北小と入船北小の交流も行ってほしいという要望も出ている。

\* 放課後異年齢児交流促進事業について

委員：あいあいくらぶを残してほしいという要望が多い。

(3) 各委員からの報告

委員：入船南小では、今年度、入船南小祭りの案内を入船北小にも出してつながりを図った。年度途中からの交流はなかなか難しいので、来年度に向け、子ども同士の交流を考えている。部活動、学校行事等で一緒にできるものと考えている。

委員：統合後のPTA活動について、先生方との連携が必要である。先生方と話し合いたい。

学校にはそれぞれの仕組みがある。入船南小には、PTA 役員は永年免除という仕組みがあるので、それを引き継げるかが課題である。

委員：運動会などの行事で協力、交流ができればいい。各学校の良いところがあるので、それぞれの良さを考えなければと思う。入船北小の運動会に入船南小がどう関わるか考えたい。

校歌・校章の早めの制定は行うのか。

委員：入船南小がなくなり、新しい学校ができることは、入船南小の保護者は理解しているのか。

委員：私の周囲の人は理解できている。校名や校歌などが変わることへの理解は少ない。体操服を今のままでよいとするなど、保護者の負担が少なくなるような配慮をしていくことが必要だと思う。

委員：入船南小の保護者は、校名や校歌が変わることを理解しているのか。

委員：通知文を読んでいるので理解している。

委員：今回のアンケートにも説明が載っていたので読んでいると思う。

委員：入船中の保護者は、分離で生徒が減ることにより部活動が少なくなるのではと心配している。

委員：事務局の前回の懇談会議事要旨のHPへのアップが早かった。そのことを保護者に伝えた。学年同士の交流、全校遠足などを考えていこうと思う。

委員：入船北小の2・3年生の保護者会では、できれば統合についての前向きな話をお願いしますと促した。新しい学校でのいじめ、新しい環境への不安が意見として出された。今年一年は子どもたちの交流がなかったが、もっと積極的に交流してほしかった。

また、入船北小と入船南小は対等な合併になるのか不安である。さらに平成27年度の6年生の残り1年間をどうするのかという不安がある。

交通整理員にはすべての学年の時間帯に対応してほしい。中学校と小学校が同じ校舎で勉強することはストレスを感じるのではないか。

PTA活動への不安をなくしてほしい。子ども同士だけではなく、親同士の交流ももっとしていくべきである。統合は初めてだから、学年ごとの保護者会等に、市教委の方に来てもらって率直な意見を聞いてほしい。お互いが歩み寄ってやっていければと思っている。1年生は来週保護者会である。

委員：跡地利用がどうなるかを心配している。入船北小は市P連には入っていないことも心配である。

委員：美浜北小にたくさん行くなれば、この場に美浜北小も呼ぶべきと思う。

委員：入船中の生徒600人のうち高洲地区の生徒は400人である。入船中の保護者は統合に関して意識が薄い。入船中を良い学校、魅力ある学校にしていきたい。例えば、入船中にしかない教室を作る。入船中が特別な活動をする。入船中に行きたくなるようにしていきたい。

委員：入船中では、小中連携の取り組みを中心にやっているが、今後は分離もあるので、その対応や不安等の相談も進めていきたい。

#### (4) 保護者・地域への情報発信について

事務局：アンケートの結果をすべてそのまま HP にアップする予定である。この懇談会の報告もアップする。また、学校統合だよりを発行する。さらに3月の教育情報誌「うらやすスタイル」に学校統合の内容が掲載される。

#### (5) 学校統合アドバイザーからの助言

建設的な会合だった。新しいことをやるときは不安があるのは当たり前である。それが不信にならないようにしてほしい。楽しみにしていけるようにしてほしい。心配の声はどの地域でも出る。肝心なのはどういう教育を行うかということだ。技術的な問題は工夫すれば解決する。大切なのは教育の中味そのものの見直しである。見直しのメインは学校の先生となる。新年度に新しいスタッフでどこまでやるか。市教委のバックアップも大切だ。

義務教育9年間の子どもたちへの教育の中味、9年間をとおした学びの保障をどうしていくかを中心に考えていくべきである。9年間のレベルアップを図りたい。

核となるのは小中連携である。たとえば、部活動は小5～中3の5年間でやっていく。中2と中3が小1と小2にかかわり、優しい生徒になったという事例もある。市教委への要望や要求だけでなく、学校・保護者・地域が一緒になってどんな教育をしていくかを、一緒に考えていくべきである。新しい学校という器にどんな料理を盛り付けていくか、自分たちでつくっていくべきである。問題が見つかりと人は知恵を出すものである。臨機応変な対応が望まれる。量が変わると質が変わる。受け皿を丁寧に作ることが重要である。